

市議会だより Obanazawa

129

令和8年5月1日発行

3月定例会
特集 ありがとう福原中学校



「福原を思う
気持ちこそ
永遠なれ」

福原中学校
校長 鈴木 和典

昭和22年、福原村立中学校から、79年間、42名の教職員が勤務し、7136名の卒業生を輩出。「敬愛・協力・自学・自修」の校訓の下、正しく、強く、朗らかな人間の育成を目指し、いつの時代も変わらぬ、理想の学校を追い求めてきました。

お伝えしたい事は、いつの時代も、福原中学校はこの地と共にあり、この地は、学校と共にあったということです。地域の

福中はこの地と共にあり、この地は学校と共にあった

皆さんは、いつも暖かく学校を見守り、子ども達の活躍を心から喜び、学校に寄り添ってくださいました。学校や子ども達が地域を元気にする、地域が学校や子ども達を元気にする、そんな両思いのこんな素敵な学校を私は誇りに思います。

本校の閉校という事実は、名残り惜しく、寂しさに耐えないものです。それでも、福中の思い出と固く結んだ絆は永遠に残り続けます。子ども達がいる限り、福中の魂は引き継がれます。代々大切にしてきた絆・伝統・文化を胸に、「福原中学校出身」という誇りと自信、そして「故郷愛」を忘れずに、これから一層活躍してくれると確信しています。そして今度は学び舎を尾花沢中学校に変え、新しい歴史を拓いていく「Starter」最初の走者」として未来に走り出します。手に持ったバトンは、福原地区の子ども達に確実につなげていくことでしよう。私はこれからも見守り続けます。

「福原中学校の 誇りを胸に」



生徒会会長
渡辺 翔斗

閉校を迎えるにあたって、地域の方々や先生方へ感謝の気持ちをしっかりと伝え、「福原中学校は素晴らしい学校だった」と思っていただけのように残りの学校生活を大切に過ごしていきます。生徒会スローガンは「Anchor」繋げ福原の伝統・開け新しい扉」を掲げました。最終走者の意味と1・2年生の新たなスタートになるようにと願いが込められています。

統合により「福原中学校」という名前はなくなりませんが、伝統をしっかりと引き継ぎ、福中生の良さを残していつまでも誇りと考えます。私たちはこの福原中学校の生徒であったことに誇りを持ち、これからの道を歩んでいきます。



最後のホームルーム

あとがき

福原中学校の閉校にあたり、母校の名前が消えていくことを考え続けました。福中の生徒会自治の素晴らしさ、先生方の教育愛、地域の故郷愛、どれも消えるのではなく、生き続けるものと気づきました。バトンを引き継ぎ、永遠に輝け福中魂！

今回の記事は、卒業式間近であったため、インタビューではなく、許可を得て「閉校記念誌」からの再録とさせていただきます。感謝申し上げます。（鈴木 清）

発行責任者

議長 菅野 修一
市議会だより編集委員
委員長 安井 一義
副委員長 鈴木 清
委員 伊藤 浩
委員 菅野 喜昭
委員 菅藤 昌己
委員 畑中 和恵
委員 土屋 範晃



門出式 ~ エールを送り合う在校生(左)と卒業生(右)~



過去最大 **185億5,900万円** 前年度比 **12.0%増**
(19億8,400万円)

住みよいま ちづくりへ大きく前進!!

令和8年度一般会計 予算

歳入185億5,900万円 内訳：自主財源 62億9,541万円 33.9%(市税等)
依存財源 122億6,359万円 66.1%(国・県)

◆主な新規事業

- 就農アドバイザー設置事業 379万円 (新規就農者、すいか農学校への支援強化)
- 堆肥センターリニューアル事業 2,200万円 (堆肥センター改修工事)
- がんばる水産業支援事業 192万円 (鮭人工孵化場の整備)
- 乳児等通園支援事業 168万円 (こども誰でも通園制度)
- 地域こどもの生活支援強化事業 100万円 (こどもの居場所づくり)
- 教育支援センター設置事業 2,127万円 (不登校児童生徒に合わせた個別支援)
- 地方スポーツ振興事業 351万円 (スポーツ、文化活動など部活動改革推進)
- 簡易水道基本料金免除 1,980万円 (物価高騰対策)
- 上水道負担金(水道料金免除分) 3,400万円 (物価高騰対策)
- 猫不妊去勢手術費補助 30万円 (適正な飼養を行うことができない猫の不妊手術の補助)
- 救急救命処置の拡充 50万円 (消防救命処置機材の整備)
- LINEを活用したオンライン化 340万円 (LINEを窓口に行行政手続きのオンライン化)

◆特別会計・事業会計予算

区分	本年度予算額	前年予算額	前年比
国民健康保険特別会計	18億4,738万円	18億7,253万円	1.3%減
中央診療所施設勘定	3億8,588万円	4億77万円	3.7%減
介護保険特別会計	19億5,816万円	19億4,134万円	0.9%増
後期高齢者医療保険特別会計	3億438万円	2億6,707万円	14%増
簡易水道事業会計	4億2,701万円	3億9,828万円	7.2%増
農業集落排水事業会計	1億2,810万円	1億2,443万円	2.9%増

◆令和7年度3月補正予算

◆一般会計補正予算

歳入歳出補正予算 1億7,334万円
歳入歳出総額 196億8,774万円

◆令和7年度尾花沢市国民健康保険特別会計

・事業勘定
歳入歳出補正予算 5,880万円
歳入歳出総額 19億7,000万円

・中央診療所施設勘定

歳入歳出補正予算 ▲3,173万円
歳入歳出総額 3億9,271万円

◆令和7年度尾花沢市介護保険特別会計

歳入歳出補正予算 6,650万円
歳入歳出総額 20億5,890万円

◆令和7年度尾花沢市後期高齢者医療保険特別会計

歳入歳出補正予算 ▲455万円
歳入歳出総額 3億321万円

◆令和7年度尾花沢市簡易水道事業会計

収益的収入補正額 965万円
収益的支出総額 2億5,706万円

◆令和7年度尾花沢市農業集落排水事業会計

収益的収入支出補正額 502万円
収益的収入支出総額 7,549万円

令和8年3月定例会 議案一覧

議案番号	審議した議案等	審議結果
議第3号	令和7年度尾花沢市一般会計補正予算	可決 (全会一致)
議第4号	令和7年度尾花沢市国民健康保険特別会計補正予算	
議第5号	令和7年度尾花沢市介護保険特別会計補正予算	
議第6号	令和7年度尾花沢市後期高齢者医療保険特別会計補正予算	
議第7号	令和7年度尾花沢市簡易水道事業会計補正予算	
議第8号	令和7年度尾花沢市農業集落排水事業会計補正予算	
議第9号	令和8年度尾花沢市一般会計予算	
議第10号	令和8年度尾花沢市国民健康保険特別会計予算	
議第11号	令和8年度尾花沢市介護保険特別会計予算	
議第12号	令和8年度尾花沢市後期高齢者医療保険特別会計予算	
議第13号	令和8年度尾花沢市簡易水道事業会計予算	
議第14号	令和8年度尾花沢市農業集落排水事業会計予算	
議第15号	尾花沢市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定	
議第16号	尾花沢市特別職に属する者等の旅費、費用弁償及び実費弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定	
議第17号	尾花沢市職員の特殊勤務手当支給条例の一部を改正する条例の制定	
議第18号	尾花沢市都市公園条例の一部を改正する条例の制定	
議第19号	尾花沢市火災予防条例の一部を改正する条例の制定	
議第20号	尾花沢市ふるさと暮らし応援条例の設定	
議第21号	尾花沢市一般職の職員の旅費に関する条例の設定	
議第22号	尾花沢市乳児等通園支援事業の設備及び運営等の基準に関する条例の設定	
議第23号	尾花沢市過疎地域持続的発展計画	
議第24号	令和7年度尾花沢市一般会計補正予算	
議第25号	令和7年度尾花沢市国民健康保険特別会計補正予算	
議第26号	尾花沢市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定	
議第27号	【債務負担行為】 令和7~9年度尾花沢市立尾花沢小学校地中熱融雪設備設置工事請負契約の締結	
議第28号	損害賠償の額を定めること	
議第29号	尾花沢市教育委員会委員の任命	
		同意 (全会一致)

3月定例会は、2月27日から3月19日までの21日間会期とし開催されました。令和8年度の予算審議については、一般会計予算案、特別会計予算案、事業会計予算案は、全会一致で可決されました。また、令和7年度の補正予算8件、条例の制定及び設定9件、委員の選任の人事案件1件、一般議案3件を可決しました。最後に、閉会中の各常任委員会及び議会運営委員会において、所管事務調査を継続していくことを確認しました。

【定例会のあらまし】

—新年度の市政を問う— 総括質疑13名

※予算特別委員長(星川薫)は、役職の立場上質疑できません。

こども誰でも
通園制度

(鈴木 清)

Q 対象は6ヶ月から3才未満の保育施設に通園していない児童だが、何人位を想定しているか。費用、契約はどうなるか。

A 15名程度を想定。月10時間(1時間30分)、契約は園と直接契約となる。

Q 安全第一の体制が必要と考える。事前面談・慣らし保育・アレルギー対応、うつぶせ寝チェックは行うか。

A 事前面談し対応する。



シルバー人材センター
運営支援事業

(大類好彦)

Q 山形市では花笠まつりの笠が足りず、ベトナムから仕入れていた。尾花沢シルバー人材センターも花笠を作成している。もっと支援強化してはどうか。

A 運営補助金として70万円のほか110万円をプラスしている。今後とも花笠作りなどの事業に協力していきたい。

特定地域づくり
事業協同組合

(菅藤昌司)

Q 特定地域づくり事業協同組合の内容及期待する効果は。

A 現段階で構成組合員数は9社、職員は2人を予定している。働き手を市内外から呼び込むとともに、年間を通じて安定した雇用の受け皿を作る。



徳良湖スノーラ
ンド運営事業

(畑中和恵)

Q 今年度の来客数は。昨年度の1.3倍で過去最高の6600人の来客数。

Q 会場整備のための圧雪車の故障をよく聞くが、雪で稼ぐ本市にとって必要不可欠である。購入の予定はないか。

A インバウンドの受け入れ環境の整備に係る国の補助金などの活用を視野に入れ、圧雪車の購入について検討する。

多面的機能
支払交付金

(高橋隆雄)

Q 多面的機能支払交付金の活用を拡充し鳥獣対策の一つとして行うべきではないか。

A 農地の保全管理を行うことが鳥獣対策にもつながるので、交付金を活用し可能な範囲で農地の管理を行っていただきたいと考える。荒廃農地を増やさないことやバッファゾーン等農地管理を行っていくことが鳥獣対策にもつながるため利用拡大を図っていく。



証明書等
コンビニ交付事業

(安井一義)

Q 発行実績及び発行種類は増えているのか。移動市役所でも発行できるのか。

A 発行実績は令和5年度1872件、令和6年度2278件、(21.6%)の増。令和7年度2500件ほどあり、年々増えている。戸籍関係の発行追加は初期費用1400万円、ランニングコスト400万円となることから、今後検討する。移動市役所でも同様の発行が昨年より可能となっている。



統合小学校
建設事業

(菅野喜昭)

Q 統合小学校建設事業(約37億1000万円)のうち統合小学校新設工事及び地中熱融雪設備設置工事の工事請負費は?

A 令和7年度当初予算において債務負担行為の設定を行った統合小学校建設工事の債務負担限度額59億8400万円のうち、令和7年度中に契約締結し、前払金を支払った残余である35億9040万円を計上している。地中熱工事は1億4630万円。



水道基本料金の
減免

(和田 哲)

Q 物価高対策として水道基本料金を6ヶ月間減免することは、家計の支出を直接支援できる。開始時期を令和8年7月より早められないか。また、周知はどうする予定か。

A 冬期間は検針ができず、5月までは暫定による水道料金の請求をしているため、早めることは難しい。周知については、HP・LINEに加え、検針票にも記載していく。



「延沢銀山遺跡」
整備事業

(菅野修二)

Q 延沢銀山遺跡保存活用計画予算542万円は、どんな保存と活用を目指す事業なのか。また、策定委員と事業の進捗を伺う。

A 遺跡の保存活用計画書が備わってこそ今後の保存活用事業に国の支援が見込まれる。7年度は12章中第3章まで完了し、8年度は残りを完成させる。策定に係る方は山形大学東北芸術工科大学、鉱山遺跡考古学協会等の先生方9委員とオプザーバー5名で構成している。延沢城主と銀鉱山との関連を明らかにし、市の貴重な歴史遺産として後世に残したい。



猫の不妊去勢
手術費補助金

(土屋範晃)

Q 誰が補助金の申請者となるのか。

A 適正に飼育している飼い主は対象外。多頭飼育崩壊や餌付して飼い主と見なされる人、地区住民などが対象になる。

Q 飼育の倫理観の欠如が疑われる方に申請してもらおう方法や支援の不公平感、誰かの飼い猫が誤って手術されてしまうトラブルへの想定は。

A 市と保健所による訪問やリスフの説明、飼い主がいらない確認書を交わすことなど様々なケースを想定している。

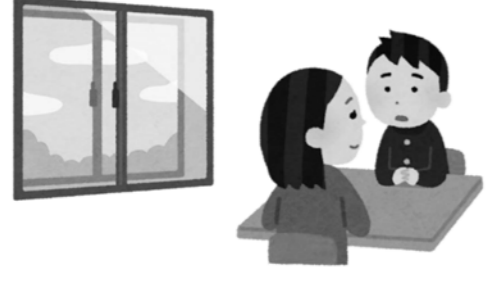


教育支援センター
設置事業

(鈴木由美子)

Q 以前と変わらず悠美館2階に設置とのこと。相談室は窓がある明るい部屋であるべきだ。不登校対策支援員を1名増員するので、義務教育終了後の青年層まで拡充し、自立を見守る支援も必要では。

A 明るい部屋の設置に努め、青年層の必要とする相談にも取り組みたい。



市民税の歳入増額

(伊藤 浩)

Q 市民税の歳入が今年度当初予算比で8.6%の増となっているが背景は何か。米価のアップによる農業所得の増額はどの影響しているのか。

A 個人住民税が9.4%の増額となった事が要因であり、その背景として米やスイカなど農業所得が約2倍に増えた事などがある。確定申告の内容を見ると、更に伸びる状況にある。

防犯灯

(青野隆一)

Q 防犯灯の電気料2分の1、設置事業3万5千円の補助金については、物価高騰や戸数の減少などで自治会の負担が大変だ。増額する考えはないか。

A 地域の実態を把握することも、地元の負担が少しでも軽減できるように検討していきたい。



予算特別委員長報告

令和8年3月6日～3月17日まで開催された予算特別委員会における各委員からの意見を踏まえて、3月19日に予算特別委員長による報告が行われました。

歳入 市民税前年度比8.6%増。所得の伸びを期待。

市債

統合小学校建設事業に伴い35億1000万円と大幅増。将来世帯に負担を強いることのないよう健全な財政規律の堅持を求めた。

歳出 事業の効果の検証を行い、重点事業に取り組みられるよう要望。

市報発行事業

レイアウト作成ソフト導入による事務効率化とミス抑制の目的など説明を受け、ソフト活用で質を高め、また読者モニター制度導入など意見を活かすための方策を検討するよう要望。

地方創生地域づくりアドバイザー事業

第7次総合振興計画に基づき「まちづくり事業」を最優先に進めていくとの事。空き公共施設や廃校校舎の活用にも注力し、実行性のある施策につなげるよう要望。

特定地域づくり事業共同組合

設立について説明を受け尾花沢マルチワーク事業協同組合が設立され、職員2名体制で6月の開始に向け調整中との説明を受け、補助金は実績に応じて交付されることだが収益確保と将来自立運営を見据え、伴走支援を要望。

公共交通再編事業

4月より大海平、荻袋開拓、西野々が「おばくる」に追加。利用開始に向け周知をしているとの説明を受け、持続可能な公共交通体系確立に向け着実な推進を求めた。

高齢者等買い物支援事業

利用者が減少傾向ではあるものの、利用者のニーズに合った買い物支援となるよう要望。

こども誰でも通園制度

保育施設未利用の6ヶ月から3歳未満までの児童が対象で15名程度との説明を受け、寄り添い、安全第一の運用を要望。

発明クラブ運営支援事業

パソコン30台の購入を計画していると説明があり、今後も継続して支援されるよう要望。

ふるさと尾花沢応援寄附金

17億円を見込んでいたとの説明を受け、銀山温泉等にQRコードを設置し現地決済型納税などを取り入れるよう要望。

徳良湖スノーランド運営事業

来客数が過去最高を記録し認知度が高まっている。一方、老朽化した圧雪車の故障により他施設から車両を借用したとの説明を受け、更新や修繕に向けた検討を要望。

多面的支払い交付金事業

有害鳥獣対策のため、適切な農地管理が出没抑制となるとの説明を受け、地域ぐるみで取り組む鳥獣被害防止対策についても周知と活用を要望。

教育支援センター設置事業

学習支援や教育相談等、また自立を促す支援員を1名増員し体制強化を図るとの説明を受け、開設場所は閉塞感があり移転を検討されるよう要望。

延沢銀山遺跡整備事業

遺跡の保存と活用指針を定める計画の策定を進め冊子取りまとめを行うとの説明があり、発掘調査等の実績を次世代へ引き継ぐため、整備推進を要望。

地域活性化事業

チャレンジ事業等地域の活性化に向けた取り組みが展開されている。他地域へも波及する仕組みと情報共有に努められるよう要望。

中央診療所施設勘定

常勤医師1名が配置され、週5日の診療日が確保されたとの説明を受け、市民のニーズに応えるべく、人員確保と経営基盤の強化、安心安全な医療サービスの提供を要望。

予算特別委員長報告の様子は、こちらからご覧いただけます →



予算案を慎重に審査するため、各常任委員会を母体とする2つの分科会が設置されました。それぞれの分科会では、終始活発な質疑応答や要望等の意見が出されました。



第1分科会 第2分科会

財産管理費(工事請負費)

地域で利用されている法定外公共物については、地域に寄り添った対応に努められるよう要望。

議事録作成支援システム

教育委員会や議会なども含め、広く活用が図られるよう要望。

AIデマンド交通運行事業

年齢別運賃の導入や運行時間、停留所の拡充等の説明があり、さらなる利便性の向上を要望。

地域おこし協力隊

任期終了後も本市への定住につながる魅力ある協力隊活動となるよう要望。

ふるさと納税基金事業費

農産物以外の新たな返礼品を検討する旨の説明を了承。



第1分科会

総務文教

学校建設費(外構工事実施設計変更事業委託料)

発注前に事業概要(ピオトープなど)について説明をいただくよう要望。

中学校管理費(スクールバス運行業務委託料)

福原地区の保護者の意見も聞き、運行ルートや運行時間、乗車場所等安心安全な運行計画とするよう要望。

災害対応ドローン

災害初動時の迅速な情報収集や職員の二次災害を防ぐため導入する旨の説明がありました。

第2分科会

産業厚生



徳良湖周辺施設

高齢者世帯等除雪サービス事業業務委託料及び扶助費

対象者が円滑にサービスを利用できるよう、除雪作業請負者に対し事業の周知を図られるよう要望。

保健衛生費健康増進事業

事業内容及び対象年齢を体系的に整理した一覧表を作成し、より市民にとって分かりやすい周知に努められるよう要望。

簡易水道事業会計負担金と上水道負担金

水道料基本料金の免除は早急を実施すべき施策であるため、年度早々に実施できるよう要望。

防犯灯設置事業補助金

補助金の増額を含めた補助制度の拡充について検討されるよう要望。

有害鳥獣被害防止対策推進事業費補助金

誘引樹木の伐採は個人単位ではなく、地域で取り組むことが重要であることから組織的な体制づくりを支援し、事業推進が図られるよう要望。

中小企業振興資金利子補給金

市内企業の経営状況を把握し、必要な支援に取り組まれるよう要望。

徳良湖周辺施設の委託料

変更となった指定管理者のことを踏まえ、知見を十分に活かしていただき、徳良湖周辺の魅力を高められるよう要望。

国民健康保険の基金

国保税の県内完全統一化に向け、市民の負担増とならないよう有効に活用することや、安定的な財政運営を行える額の設定を要望。

簡易水道事業会計 給水収益

設備の更新需要の増加が見込まれる一方、人口減少により給水収益は徐々に減少していくことが見込まれるため、水道料金改定について検討されるよう要望。

よりよい尾花沢市を目指して！

9人の議員は 質^{ただ}こう質^{ただ}した！

令和8年3月定例会 一般質問

※青文字タイトルが掲載

鈴木由美子	<ul style="list-style-type: none"> ① 火災発生後の検証と防火対策 2 市民新春祝賀会の開催方法 3 子育て支援センター移転計画 4 銀山温泉における歴史的建造物の雪害防止と高所作業の危険性排除 	青野隆一	<ul style="list-style-type: none"> 1 中長期財政計画は ② 小中学校の1校統合は 3 災害要援護者名簿の整備 4 第9期高齢者保健福祉計画
星川薫	<ul style="list-style-type: none"> 1 本市においての障がい者雇用 ② 尾花沢市職員の任用と定数 3 小水力発電の調査結果 4 流雪溝のデジタル管理化 	鈴木清	<ul style="list-style-type: none"> ① 多文化共生社会へ 2 お試し乗車券と公共交通整備
大類好彦	<ul style="list-style-type: none"> ① 約4年間の実績は 2 市長の進退は 	安井一義	<ul style="list-style-type: none"> 1 未利用地・未利用施設の利活用検討会の立ち上げを 2 市民の居場所をどう考えるのか ③ 鳥獣被害対策
畑中和恵	<ul style="list-style-type: none"> 1 子育て環境の充実と対策 2 中学校統合の今後は ③ 克雪に向けての取り組みは 	菅藤昌己	<ul style="list-style-type: none"> 1 豪雪対策 ② 尾花沢市小規模修繕工事の登録者 3 経営所得安定対策
和田哲	<ul style="list-style-type: none"> ① ふるさと納税が成長する一方で考えるべき主な課題 2 スクールバスの車庫整備の必要性 3 市長市政方針 		

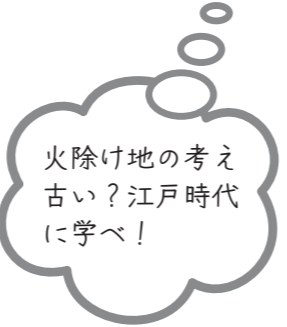
質問議員が責任を持って原稿を作成しています。



鈴木由美子 議員



動画はこちら



問 火災発生時の対応策強化は

答 耐震性貯水槽を増設する

問 令和7年度の火災発生事案は13件、前年度比プラス4件であった。被害を最小限に止める対策が急がれる。その後の検証と対応方針は。

答 特に被害の大きかった新町地区の火災は、深夜に木造住宅密集地で発生し、初期段階での延焼が大きかった。そのため、狭小な空間での延焼に有効な「ウォーターカーテン」の活用を検討し有効性を確認。今後通常放水と併用し確実な防衛態制を構築する。

問 自然水利になるべく頼らない方針のようにだが、耐震性貯水槽の設置には多額の予算と時間を費やす。早急な対応策として、今以上に土地改良区との強固な連携が必要では。

答 あくまでも農業用水であるが、消防指令センターからの連絡シ

問 「過去の教訓から学んでいないのでは」との声が多い。火災の記録は活かされているのか。改めて資料として残しては。

答 これまでの活動記録や原因調査書を永久保存し、職員教育の教材としている。



問 尾花沢市職員の任用と定数

答 積極的に挑戦していただきたい

問 尾花沢市職員の任用に関する規則、第13条 受験の資格要件は、受験者として必要な最低の経歴・学歴・免許及び年齢等について試験の都度市長が定める。とあるが、市職員の子や兄弟は採用の対象外と慣例になっている。この慣例を無くすべき

問 消防職員の定数は52名で定年延長に伴い、この先8年間は採用が見込めない状況となっている。ある程度まとまった定数を増やすべきと考えるがいかがか。

答 仕事の役割の中で、新たに人材が必要だと判断した場合や、仕事の増強によって人を配置していくことが我々の



消防署



星川 薫 議員



動画はこちら



の仕事であり、そこをもう一度、現場の職員と話し合って決めて行く。

問 市長の4年間の実績は
答 3つの柱それぞれに成果があった

問 市長は、4年前に公約やパンフレット等で、様々な施策を提案している。3つの柱として、1つ「みんなが安心して楽しく暮らせる街づくり」、2つ「若者が住み続けられる未来に向けての街づくり」、3つ「誰もが

魅力を感じる尾花沢市ブランドの確立にむけて」と言っている。4年間の実績についてお伺いしたい。

答 1つ目については、特定地域づくり事業組合の設立がある。農林水産業、商工業等の地域の担い手を確保し、地域社会の維持活性化を図るものである。2つ目については、中央診療所の小児科医の開診。毎週水曜日の午前中の診察を開始した。また、ふるさと納税についても、今年1月時点で18億円を超える過去最高の寄附額となっている。3つ目については、尾花沢すいかの首都圏のトップセールスやすすいか農学

校の設立、女性すいか農業団体コシエルの設立支援などPRに努めてきた。

問 市長選挙出馬の意思について。

答 市長選挙への出馬を正式に表明したい。今後とも皆様にご支持いただけるよう努める考えを伺う。



大類 好彦 議員



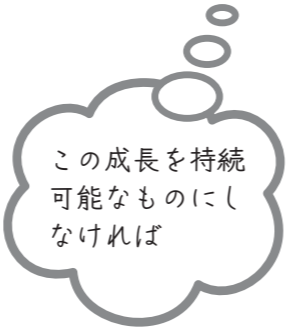
動画はこちら



和田 哲 議員



動画はこちら



問 寄附金活用事業の公開強化を
答 今後は事業の詳細を紹介したい

問 寄附額が伸びている今だからこそ、見えてくる課題もある。これから、返礼品の多様化や、新規事業者の育成・支援は、どのように進めていくのか。

答 1つ目については、目線も厳しくなる。寄附金の活用事業の公開を強化できないか。

答 現在の公開内容に加え、今後は、寄附金が活用された事業の詳細について紹介していきたい。

問 寄附額の増加に伴

増加している現状だ。主力製品のブランドの磨き上げを加速させるとともに、新規事業者の育成・支援を図り、寄附拡大に繋げたい。

問 寄附額の増加に伴い、市民や寄附者からの「お金はどう使われているのか?」という

年度	寄附額(円)
R 1	413,790,182
R 2	581,649,860
R 3	789,227,600
R 4	1,010,877,439
R 5	1,316,881,500
R 6	1,684,355,000

年々増加する寄附額(目標は20億円)

い、職員の事務負担の増加も懸念される。業務効率化や外部委託の最適化をどう進めるのか。

答 現在、業務の一部を外部委託し、円滑な事務運営に努めているが、今後とも限られた人員体制の中で、最大の効果を発揮できる体制づくりに努めていく。

問 持続可能な除排雪体制の構築を
答 再構築していくことが重要

問 空き家の増加で除雪未実施や倒壊・落雪の危険個所が増加している。除雪業者の高齢化で人員確保が困難となることも予測される。持続可能な除排雪体制の構築を伺う。

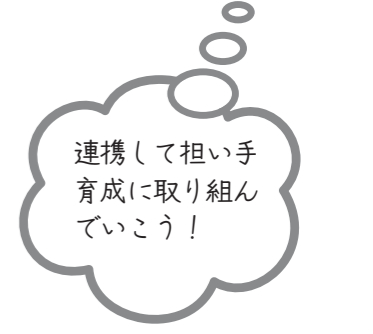
答 第7次総合振興計



畑中 和恵 議員



動画はこちら



空き家の積雪

「自助・共助・公助」の維持が困難となり、除雪担い手の不足と支援を要する世帯の増加が同時に進むと予測される。今後の10年間は住宅の克雪化をより一層進め、そもそも雪下ろしを必要としない、あるいは回数を大幅に減らせる住環境を整えるとともに、行政の垣根を超えた連携、住宅のリフォームに対応する民間金融機関と連携した新たな資金支援策を導入するなど、市民・地域・行政・民間事業者が一体となって、時代に即した体制を再構築していくことが重要と考える。

問 福中をどう利用するのか?
答 市で利活用する考えはない

問 3月の『福原公民館だより』で、各集落総会で福中の活用方法を話すよう要請した。どう進めたのか。

答 区長会に職員が出向き、利用方法をまとめてくれるよう話した。

問 校舎棟の水漏れ状態はいかがか。

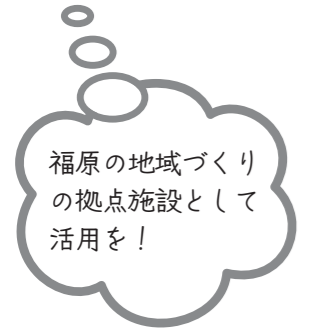
答 完全に漏水を防止



青野 隆一 議員



動画はこちら



8か所もの水漏れがある

することは難しい。

問 漏水場所が8か所ある。配線が火災原因にならないか。

答 漏電が一番心配だ。発動しないよう火災報知器を外しているところがある。

問 排水する管をつなぐと、防火シャッターが作動しないのは消防法に違反しないのか。

答 消防本部では、消防施設に破損や不具合

があれば速やかに改善するよう通知書を出している。

問 4月からの漏水処理は誰が行うのか。すぐ校舎全体が水浸しになる。屋根をかける工事が必要だ。

答 雨漏りは校舎棟であり、体育館は避難所として使える。民間や地域で校舎棟を使う場合は対応する。

問 認め合う交流企画が必要

答 顔の見える関係が大事

問 全国の外国人労働者は27万人（生活者は36万人・人口の3%）。県内でも、外国人は1万人を超え、人手不足に悩む企業が労働力として求める傾向にある。全国知事会は10月「多文化共生社会を目指す共同宣言」を採択。県は「山形県多文化共生

【外国人が多い市町村順(R6)】

1. 山形市	1,915人
2. 米沢市	1,219人
3. 鶴岡市	958人
4. 天童市	724人
5. 酒田市	617人
6. 寒河江市	530人
7. 新庄市	456人
8. 長井市	454人
9. 東根市	449人
10. 河北町	343人
11. 南陽市	324人
12. 上山市	260人
13. 村山市	230人
14. 高畠町	224人
...	...
尾花沢市	131人

推進プラン」を3月策定。以下、本市の実情と考えを質問したい。①外国人住人の人数・国籍は。②市役所に外国人窓口はあるか、どんな相談があるか。③外国にルーツのある外国人はいるか。④日本語教室の成果と課題は。⑤交流企画が必要ではないか。⑥市の総合計画に「多文化共生社会」のプランを入れるべき。

答 ①131人。フィリピン・韓国・ベトナム・ミャンマーの順。②窓口は無い。全国的には医療・教育の相談がある。③海外生まれ海外育ちの子どもはいない。④年20回開催。病院の受診や電話対応などへ学習意欲が向上している。⑤行事や祭事へ参加し、顔の見える関係性を大切にしたい。⑥主要施策の1つに位置づけている。



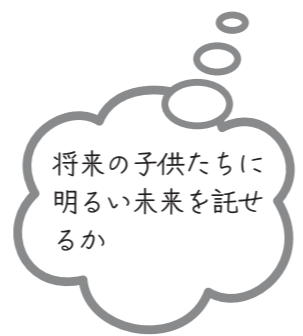
鈴木 清 議員

動画はこちら



菅藤 昌己 議員

動画はこちら



問 尾花沢市小規模登録修繕事業の拡充

答 工事の対象金額を130万に引き上げを進める

問 本市の小規模登録修繕工事希望者登録について3か年の登録者数と実績は如何か。

4年度51件、50万円、令和5年度61件570万円、令和6年度が47件500万円となっている。現在、工事の対象金額は、100万円未満となっている。競争入札業者選定基準に基づき工事の発注を行っている

が、発注区分を整理する必要があり、現行の100万から130万への引き上げについては、発注区分に整合性もとれることから、前向きに検討していく。小規模修繕については、登録業者を積極的に活用するよう周知するとともに、担当課からも声掛けをしていく。

答 小規模事業者の受注機会の拡大と市内経済の活性化を目的に、市内に主たる事業所を有する個人、法人であれば登録が可能。登録事業者数は、令和4年5年、6年いずれも25事業者で推移している。また、年間の修繕の件数と事業費合計は令和



将来の夢は立派な大工さん



安井 一義 議員

動画はこちら



問 鳥獣被害対策について

答 地域一体で追い払いと行政での捕獲

問 クマ・サル・イノシシ・サギ等の出没の対策について、個々の動物への対策・対処についてどのように考えるか。

答 鳥獣全種類に対して現在のところ電気柵設置が一番効果が高いと認識しており、地域が一体となった追い払い活動を後押ししてきた。更なる農作物の被害防止・軽減を図るために個人の電気柵設置、地域一体での追い払い、行政が実施する有害鳥獣捕獲を推進していく。令和8年度は狩猟免許

問 森や畑などの里山整備はどのように計画されているか。

答 緩衝地帯の整備と活用し、地域の皆さんのご要望等をお聞きしながら引き続きバツファゾーン整備を実施する。

問 狩猟免許所持者を鳥獣対策専門員の採用とあるが採用基準はあ

答 現在山形県において、試験的に実証試験をやっており県内市町村の行政で運用。住民から市町村に寄せられたクマの情報、市町村の職員が入力する。県では令和8年4月から本格稼働を目指している。またトリ対策は追い払い、捕獲等の対策を今取っているが効果は限定的である。

問 鳥獣全種類に対して現在のところ電気柵設置が一番効果が高いと認識しており、地域が一体となった追い払い活動を後押ししてきた。更なる農作物の被害防止・軽減を図るために個人の電気柵設置、地域一体での追い払い、行政が実施する有害鳥獣捕獲を推進していく。令和8年度は狩猟免許

問 緩衝地帯の整備と活用し、地域の皆さんのご要望等をお聞きしながら引き続きバツファゾーン整備を実施する。



けものおと2アプリ

傍聴された方の人数

日付	人数
3月5日	24人
3月6日	17人
3月19日	2人
合計	43人

傍聴者の声

質問する方もわかりやすかったと感じます。毎日の生活に適した話をしていたいただきたいと思ひます。

傍聴のご案内

ライブ中継のご案内

◎本会議、予算特別委員会の模様は、インターネットにてライブ中継を行っております。パソコン、スマートフォンやタブレットからも視聴できますので、ぜひご覧ください。



市役所3階 議会事務局にて傍聴の受付を行っております。当日受付、議場で傍聴できます。各委員会の傍聴をご希望の方は、事前に議会事務局へお問合せください。

尾花沢市議会 議会中継 <https://www.kensakusystem.jp/obanazawa-vod/index.html>
お問合せ 尾花沢市議会事務局(市役所3階) TEL: 0237 (22) 3755 / FAX: 0237 (24) 0321

秋田県湯沢市「意見交換会」

広報広聴委員会

令和8年1月22日、秋田県湯沢市議会に伺い行政視察を実施。湯沢市議会では、議会基本条例を制定し、意見交換会を開始しており以下の4つの取り組みを行っています。

①【議員としゃべろうマチトーク】
ワールド・カフェ形式により、地域を元気にするアイデアを持ち寄り、グループでの意見交換、アイデアの深掘りを行います。

②【出張!!なんでも意見交換会】
さまざまな団体と意見交換を行う新しい取組として、議員と語り合おう「出張!!なんでも意見交換会」の開催。ご意見やご提案などを議会活動に反映させ、政策提言などに活かしています。

③【ゆびわ市民一口議会】
市民の皆さんから市政や議会へのご意見やご提案をお聴きする取り組み。議会改革推進会議などで協議し、市政および議会活動に反映させ、当日の議会映像はYouTube(YouTube)で録画放送します。



①ワールド・カフェ方式の様子



②出張!!なんでも意見交換会

④【まちなかプチ議会】
議会広聴活動の一環として市民と議員が気軽に「市政のこと」や「議会活動のこと」などを、まったりやイベントで語り合う場を設けています。

宮城県岩沼市「Facebookの情報発信」

議会改革推進委員会 (情報発信部会)

情報発信部会では、議会の透明性と議員活動の周知を図るため議会だよりと合わせてSNSを活用することを提案しました。安全性を考慮した運用を開始するために令和7年10月3日に宮城県岩沼市に視察に行ってきました。Facebookを用い、委員会の開催などタイムリーな情報の発信は尾花沢市議会でもぜひ運用するべきだと考えます。議会だよりはそのままに紙媒体の良さを活かしつつ、デジタルも活用した情報発信に取り組みしていきたいと考えています。



岩沼市議会の調査風景

福島県二本松市「議会基本条例検証・議員定数」／伊達市「通年議会」

議会運営委員会

12月22日から23日にかけて福島県二本松市議会と伊達市議会に伺い行政調査を実施した。

①【二本松市】市議会では、議会基本条例の検証と議員定数等の見直しに向けた取り組み状況を調査した。議員定数等の見直しについては、各派代表からなる代表者8名による特別委員会を設置し10回にわたる協議を重ねた。市民アンケート調査も実施し、22名から2名減となり20名の定数となった。

議会基本条例の検証として、条例に規定している目的が達成されているかどうかを議会改革調査特別委員会において議論を重ね結果と評価を取りまとめた。特別委員会は9回開催し、達成状況を5段階で47項目を評価した。この検証を通じて、市民のニーズや社会情



伊達市議会の調査風景

勢の変化に柔軟に対応しているか、市民の負託に応えられる議会づくりが重要であるなどの課題が見えた。

②【伊達市】二日目は、議会の令和3年5月1日より実施している通年議会について行政調査を行った。議会を通年開催することによるメリットとデメリットを学んだ。議会が会期にとらわれず年間を通じて活動することにより、専決処分の承認件数は激減していた。市長が年一度招集会議で招集し、議長が休会し再開も議長が行う。本市においては、各常任委員会の活動期間を通年にわたり行っているが、議会も通年開催する方向を検討する時期にきている。

埼玉県杉戸町・小川町「議会だより編集とリニューアル」

議会だより編集委員会

令和8年1月22日～23日埼玉県杉戸町、小川町に伺い議会だよりの編集等について調査を行った。

①【杉戸町】リニューアルを断行した事例を調査した。表紙は「人物中心」、気を引くキャッチコピーの採用。議員自らベストを着用して現地取材を行い、特集ページを作成。議員が携帯端末で撮影した写真を編集ソフト等で自ら編集し、予算を抑えつつ「手作り感」のある親しみやすい紙面づくりを実践している。ユニバー



杉戸町



小川町

サルデザインフォントへ統一するなど編集のスキルが非常に高いものとなっている。

②【小川町】全国コンクールで7年連続入選を果たしており高い評価を得ている。その編集方針と連携体制を調査した。一般質問の見せ方がシステム化され、タイトル、質問概要、答弁概要をキーワード5文字、見出しを12文字以内にする事により、視覚的効果が表れている。QRコード表示で動画連携、音声版CDの提供もある。会議録センターと連携し、レイアウトは担当議員が考案。委員会ではプロジェクトで紙面を撮影し、全員で意見交換を行う編集スタイルはぜひ実施したい。